

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	観光ルート整備事業								
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	産業振興課	係	商工振興係	評価票作成者	観光・消費生活担当係長 相羽敬明	
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	観光		コード	3 3 4
	項				単位施策(中)	観光施設の整備		コード	3 3 4 3
		産業振興			単位施策(小)	観光ルートの整備		コード	3 3 4 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市内外の観光客		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	市内の史跡、文化財等を結ぶ観光ルートを創出し、豊明を訪れた観光客の利便を図る。				
1-5 事務事業の内容	市内の名勝、史跡観光ルートを創出し、観光マップを作成する。ルート決定に当たっては、協議会（仮称）を設置して検討していく。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	桶狭間古戦場周辺散策ルートを検討した。	史跡観光ルートを作成し、周辺情報も入れたマップを作成する必要がある。		モデルコースと周辺情報を取り入れたマップの作成は要望が高いと思われる。	
	平成19年度	県が推進する尾張地域観光モデルコースの策定に参加した。	"		"	
	平成20年度	"	"		隣接する名古屋市緑区古戦場周辺情報も取り入れたルート作りを検討した。	
	平成21年度	商工会が新規に市内十三仏めぐり散策コースを作成したので、参考にしながら文化財を巡るコースの策定を検討した。	"		豊明市と名古屋市緑区にかけた桶狭間の戦いに関連する史跡等の案内マップの作成要望が高いと思われる。	
	平成22年度	健康ブームのため、高齢者を中心としたウォーキング大会などが盛んであるため、市民が手軽に歩くことができるよう、観光史跡情報なども取り入れたウォーキングマップを作成する必要がある。				
	平成23年度	健康ブームのため、高齢者を中心としたウォーキング大会などが盛んであるため、市民が手軽に歩くことができるよう、観光史跡情報なども取り入れたウォーキングマップを作成する必要がある。				
	平成24年度					
	平成25年度					
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	観光ルート利用者数(人)		1,500(人)	1,500(人)	観光マップの配布数から推計する。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a (単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b (千円)	0	0	0	0	243	305				
	人件費 c (千円)	102	102	89	128	496	480				
	合計コスト d (b+c) (千円)	102	102	89	128	739	785				
	単位コスト d/a (千円)	1人当たり -	1人当たり -	1人当たり -	1人当たり -	1人当たり 2.8	1人当たり1.3	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 県観光協会負担金 305,000円
 人件費 : 2人 × 20日 × 4h × 3,000円 = 480,000円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	0	0	0	0	265	606				
	後期目標値に対する達成度(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	40.0				

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A	A	A	A	A	A				

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	マップのコース作りの中に興味ある周辺情報を盛り込むことが必要となる。			コース作りと併せて、案内板等の整備について市観光協会と協議しながら検討を行う。		市内のよく知られた観光資源ばかりではなく、新たな洗い出しから改めて行う必要性を感じる。
平成19年度		〃			〃	新たな観光PRとして観光スポットに近い公共施設巡回バスのバス停案内を簡単な観光案内も兼ねて車内アナウンスで流すようにした。	
平成20年度		〃			〃	県尾張地域観光まちづくりネットワークに参加して広域ルートづくりに参加して「桶狭間の戦いルート」を作成する。	
平成21年度		〃			〃	魅力あるコースとするため、お店情報、特典サービスを取り入れた内容に出来ないか検討した。	
平成22年度	県観光協会と共催したトコトコ東海道のウォーキング開催に際し、桶狭間古戦場伝説地を中心としたコースマップを作成した。また、商工会として13仏を中心としたウォーキングマップを作成したので観光協会と協議しながらお店情報などを掲載したマップを作成を検討していく。						
平成23年度	県観光協会と共催したトコトコ東海道のウォーキング開催に際し、桶狭間古戦場伝説地を中心としたコースマップを作成した。これとは別の観光施設等をめぐるルートを検討していく。						
平成24年度							
平成25年度							
平成26年度							
平成27年度							

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	B	事業実績がないので、具体的な事務事業を検討する必要がある。
平成19年度	B	市民アイデア参画やウェブ公開等手法を検討すること。
平成20年度	B	市民アイデア参画やウェブ公開等手法を検討すること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		